

## 第2回長野市都市内分権審議会 議事の内容

と き 平成17年6月7日(火)午後1時30分～  
ところ 長野市役所第二庁舎10階講堂

### 1 委員の変更について

長野市区長会会長の交代に伴い、馬場雄二郎委員から齊藤忠二委員に変更

### 2 議事

#### (1) 追加資料について

- ・長野市都市内分権調査・研究報告書には、習志野市の「まちづくり予算会議」のような位置付けはされているのか。
- ・保健の事業というのは地域でとても重要だが、報告書では、保健福祉センターはどのように位置付けられているのか。
- ・報告書では、地域総合事務所の設置数は3ヶ所が適当だと断定しているが、その根拠は。
- ・保健福祉ブロックと地域総合事務所の関係が難しくなる。
- ・習志野市の「まちづくり予算会議」は、市民の声が予算に反映される、と思う。
- ・宇都宮市の連合自治会は、支所・出張所が対応するような形で設置されているのか。
- ・宇都宮市には、総合事務所的な考え方はあるのか。将来的にはどうか。
- ・世田谷区以外に、全国的に見て、総合事務所を設置しているところはあるのか。
- ・自治会への加入率は、地域ごとにばらつきがあるので、低いところはどうするのか。

#### (2) 今後の審議の進め方について

##### 【都市内分権の住民メリットについて】

(会長の補足)

- ・単に市の財政状況が悪くなるので、今まで市がやってきた仕事の一部を住民に押しつけようということではない。役所の中ではメリットであるかもしれないが、住民の側では必ずしもそうではない。
- ・都市内分権は、長野市をこういった地域にしたいという願いが現れているのではないかと推察する。宗像市のような地域単位での活動を住民たちが自分たちで考えて、活動をやっていく、それを役所がサポートするというスタイルに替えていこうという、これまでの住民と行政の関係をあのようなスタイルに替えていくという考えではないか。
- ・地域の活性化は非常に重要な課題ではあるが、公平性・公正性ということを重視する役人では、それぞれ地域の特色を活かしたまちづくりをしていく場合にはマイナスに働いてしまうので無理だろうと思う。それならいっそのこと地域に住んでいる人たちに、地域のことは地域に住んでいる人たちが良く知っているから、その人たちに任せてみようということが、都市内分権の考えの基にあるのではないかと推察する。
- ・自治体の職員は発想が貧困。新しいことにチャレンジするということがなかなか難しい。地域の人に任せた方が、自由な発想で、おもしろい、みんなが喜ぶものが作れるのではないかと考えるものではないか。
- ・全体的にどうしても住民の方が行政に「あれしてくれ」「これしてくれ」という傾向があることも否めない。もう少し自分たちの方から提案してもらって、その提案に基づいて地域づくりをしていってもらおう。市役所に対して批判を言うだけでなく、あるいは対抗するだけでなく、対案を出して、自分の地域を作っていってもらおう。そういう意味での自治意識というものを皆様に持っていただきたいというお話を市長から伺ったことある。そういった願いが都市内分権の構想の中にはベースとしてあるのではないかと私なりに理解をしている。

(委員の意見)

- ・自分たちの発想で、自分たちの手で、地域のことが出来るような体制を作ることが都市内分権だと思う。
- ・都市内分権というのは市の画一性のものでなくて、地域を育てながら都市内分権の組織も育てていくという発想でないと都市内分権にならない。
- ・何をすることによって住民の参加が得られるか、例えば、住民がどうしても参加するものは防災。地域で助けながらやっていくための組織が出来れば、地域住民が参加できる。
- ・都市内分権を議論する前提としては、少子化や高齢化が進んでいって地域の自治会組織もままならないという中で、いかに自らの住む地域を良くしていくか、あるいは住民の声を行政へ反映させていくかというところ。
- ・自分たちが行政に参画して、自分たちが自ら行政を担うんだということが実際に出来るようにするには、どういう権限を与えられるのかということを考えてみる必要がある。
- ・例えば、一定の金額を、自由発想で行政にまつわることに使ってもいいよというように予算を分けるなど、方法はいくつかあると思う。
- ・分権といって、権利を最初にとということではなく、我々はどういうことをしたいんだという自発的な活動を出せるような、もっと素朴な段階が必要かと思う。
- ・住民自治協議会というものを作って、まず住民が我々の地区ではこういうことが必要なんだということを具体的に出す中で、行政の立場から示唆をいただきながら、住民の手で出来ることはやっていくという、そういう根本が分からないと、今までの上にそういうことをやっているだけのものになってしまうという感じがした。
- ・むしろ行政の方が住民に依存している面もある。そういう関係も新しい仕組みをつくる中で見直していかなければならないという課題ではないか。
- ・枠組みを作ろうというか、形として作って、そこへ住民組織を当てはめようという形に向かっているような気がする。
- ・どうやったら住民が地域活動に出てくるかということが大事になってくると思う。
- ・松本の蠓ヶ崎自治会のような例や地域通貨、コミュニティビジネスなど、地域の活力を高める方策が必要。
- ・住民がどのように関わるか、どのように住民が参加していくのかという仕掛けがないと、ただ今の組織がリニューアルしただけのものになってしまうのではないか。
- ・自分たちの住みやすい地域は自分たちで作らなければいけないという趣旨に基づいて、もう少し検討したらどうか。住み良くするためには自分たちでやらなければ、行政にこうしなさいあれしなさいというだけでは良い地域は出来ていかない。皆さんの協力が得られるようなノウハウが知りたい。
- ・地域へ出て行って、地域の皆さんの意見を聴くということは、ぜひやってもらいたい。地域の区長会なり、団体にも相談して、どういう形で委員を迎えて懇談できるのかというのは、その地域の人に選んでもらったらどうか。
- ・実際に行動を起してやっていくのは、区単位の自治区と地域公民館。そういう意味で地域のコミュニティを醸成していく一番基礎、地域公民館単位のところの議論が、ここには全然出て来ない。
- ・住民の依存体質の中で分権を進めるには、どういうところから進めたらいいかという問題だと思う。特に昨年の台風災害時には、住民の皆さんが相当の活躍をした。これが住民のパワーなんだと、自治だなという感じがした。
- ・今までの行政は、全市的に施策を網羅してきたが、都市内分権は、地域の特性を引き出せるようなものであれば、と思う。今までこうだったけど、こうやらしてもらいたいというようなことを引き出せるようなものにしていったらいいのではないか。

#### 【地区懇談会について】

- ・地区懇談会は時期尚早。審議会として、まとまらない段階では、手ぶらでいって何を話して来るんだということ。
- ・審議会でも議論が噴出する中で、懇談会は必要ない。審議会の内容を説明したり今までの経過を説明しなければ懇談会にならない。審議会です十分な審議をしていった方が成果が上がると思う。
- ・今まで地区を回って作った報告書を、大きな括りで検討していくのが筋。その中でいろいろなアイディアが出てくるのではないか。
- ・地区懇談会は進めるべき。今まで何回もやっている。都市内分権という言葉が耳新しいわけではない。地区の皆さん何かいい話あるかと、逆に聞くということが大事。
- ・日程はともかく、都市内分権を議論する以上は、最終段階のパブリックコメントに任せるのではなくて、方法は検討するとして、やる必要がある。
- ・出席する委員はもう少し多く行って欲しい。2人ではなくて4、5人程度。
- ・議論をどこまでもっていくのか。例えば総合事務所まで持っていくのか、支所・連絡所を充実するのかという前提をまずどこかで決めておかないと議論ができない。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・次回、懇談会の是非について議論をする。</li><li>・懇談会を実施する、しないに関わらず、審議会としてのプランは作るべきである。</li></ul> |
|---|

#### 【長野市都市内分権調査・研究報告書の取り扱い】

(会長より提案)

- ・これをたたき台にして審議会の案を作っていけばいい。それをベースに地域の人にたたいてもらう、ということでもいいんじゃないか。みんな気になっている。
- ・いろいろな思いがあり、このまま突っ込まれちゃ困る、という思いの人もいる。そのことはこだわらずに、市の事務方がしっかり研究してくれたんだから、その中身を見て、率直に意見を出して、いいものは取り、悪いものは削り、加えるものがあったら加えるとやっていくことが、一番具体的に進みやすいんじゃないか。

- |   |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"><li>・次回以降、長野市都市内分権調査・研究報告書をたたき台として議論を進める。</li></ul> |
|---|

以上